

文化薫道

◆其の四十七 筑紫野と呼ばれて

「筑紫野」という名称が自治体名として公式に誕生したのは、昭和30年の町村合併（二日市町、山口村、御笠村、筑紫村、山家村）の時のことですが、命名の理由はよく分かっていません。合併申請の文書には「…満場一致、筑紫野町と呼称することに決定した」とあるだけで詳しい事情が記載されていないためです。

そのため諸説があり、東京のベッドタウン「武蔵野」のイメージにちなんだとする説や、九州の古名「筑紫」と古来から紫草を産した「紫野」の組み合わせであるという説などが聞かれます。

それでは「筑紫野」という名称を記録の上で追いかけてみるとどうでしょうか。

古いものとしては、明治時代に開校した市内の小学校校歌の歌詞に見いだすことができます。明治6年開校の二日市小学校、山口小学校、同12年開校の阿志岐小学校校歌などが初期の例となります。

これらを見る限りでは、限定的な地域で

はなく、九州の古名「筑紫」に広がっている平野を大きくイメージしていると考へた方がしっくりくるようです。

一方、江戸時代以前の史料には「筑紫野」という名称は見当たりませんので、



昭和30年、筑紫野町が誕生

明治時代に入って新たに造語されたのではないかと考えられます。

また興味深いものとしては、昭和29・30年に「全国高校駅伝」を二連覇した「筑紫野高校」の存在があります。現在の県立福岡農業高等学校のことで、福岡市博多区竹下にあります。その移転に際して二日市への誘致運動が展開されていたのです。誘致は最終的には撤回されたようですが、全国的知名度を持つ「筑紫野」という名称は人々の記憶に刻まれた可能性があります。

特定の地域を示さず、広く共有できるイメージを持つことに加え、その知名度に対する期待感が、昭和30年の「筑紫野」町誕生に何らかの影響があったのかもしれない。今から64年前の出来事です。

問い合わせ先／文化財課

